明治二十年三月二十九日認可遞送　やまと新聞第百三十九號附録

近世人物誌

やまと新聞附録　第六

金瓶大黒の娼妓　今紫

中古の娼妓の評騭うし新吉原江戸町壱丁目金瓶大黒の抱へ樹女今紫い太夫の高橋お幸と称し始め柳橋ゆありて半玉の藝妓たりしが元治元年秋七月同楼の抱えとなり慶應二年五月三代目今紫の突出しふて仲の町へ出名を静と唱ふ二世今紫根引の後三代目今紫の妹娼妓を突出の後静の名を予へて突出し其翌年静江を突出し二年間ゐて天の突出しをせし事其全盛想ふべきなり一年吉原近傍洪水の事あるに臨て同楼一二の娼妓と謀り金貳百圓宛を罹災の窮民へ施與し東京府廳へ木盃壱個白紙書状を賜りたり或時人ありて名を商より根引の相談ありしに金額の差等に由て敕ぜず其挨拶とし豪商より金貳百圓を送りしかど手ゐたゞふ鱗のわゞ茶屋が仲裁して之を燈篭入費の寄附と爲せしめたり明治五年遊女解放の令あるや芝白金町ふゐる實母の方へ戻り壱度砂糖商人の妻となり離縁ありて後新富町辺居茶屋を開き家号を三州屋と呼び一時盛んなりし都合ありてこれを廢業し盖し本図の同楼が遊客の餘興ふそ催せし今様と舞の姿をあらはす

發行所　東京京橋區尾張町貳丁目壱番地　やまと新聞社
特志筆　奥隅欽二
印刷人　中泉攻太郎
編輯人

金瓶大黒の娼妓6号　文庫10-8617-6
早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library